

2011年度 教 育 研 究 論 文

研究テーマ：家庭学習定着プログラム「マイ学」の研究

前 田 勉

高槻市立城南中学校

1. はじめに

学力に関する課題については、OECDによる生徒の学力到達度調査（PISA）や、全国学力学習状況調査、また今年度より実施されている大阪府独自の学力・学習状況調査の結果などから、基礎基本の定着や活用力に関する多くの問題点が提起されてきた。

調査結果が発表された当初には、児童・生徒の学力低下が問題視され、同時に学習意欲や授業規律など、学習環境全般にわたり改善の必要性が叫ばれたが、調査の回数を重ねる毎に一定の改善点が見られるようになってきている。

これらの変化は本校を含めた多くの学校において、「授業改善」を学校づくりの中心に位置づけ、鋭意取組みを推進してきた成果と思われる。

当然、学力問題の解決を考える2つの方向軸の一方は学校での「わかる授業づくり」であるが、もう一方の家庭での能動的な学習態度の醸成も不可欠な要素である。その意味でもより効果的な学力向上を目指す時、家庭での学習環境を高める取り組みが必要となってくる。

しかし、これまでの学習実態調査から様々な課題が明らかになっている中で、特筆すべきは家庭学習時間の短さである。民間の教育研究機関の全国調査¹でも、生徒（中学2年生）の約2割は家庭でほとんど勉強していない、との結果が出ている。また、生徒による取組み姿勢や受け身的な学習意欲など、大きな個人差が見られるのが実態である。

家庭学習習慣の定着が学ぶ喜びを体得することにつながり、学校での授業規律を高め、学力の全体的な底上げで二極化を防止する側面的効果があると考えられる。

筆者は、「学力は判断力」との信念から、基礎基本の定着が学力問題解決の要諦と考え、効果的な家庭学習習慣の定着プログラムの実践研究を平成22年度より学校全体で取り組んできた。

本稿では家庭学習習慣の定着に向けた戦略的な実践について述べる。

2. 家庭学習習慣の定着のための取組項目

筆者が大切にしている教育実践の一つに「型はめと評価」²がある。型とは生徒を指導・支援する折に最初に決める理想的な枠組みのこと。どこの学校にもチャイムが鳴ったら席に着き、授業中は私語を慎み勝手に立ち歩かない等、型はめ的なルールがあります。そしてルールが守れていればしっかりと評価（褒める）をすることが大切です。

「型はめ」は学期のスタート時や節目に徹底するのが最適。家庭学習を定着させるにあたり、型はめ的な枠組み9項目を設定した。

- ・ ネーミングは「マイ学」(毎日^{マイ}学びのマイ、^{マイ}セルフのマイ)
- ・ 継続した取組みにするため、教職員、生徒、保護者・地域に戦略的なアプローチを仕掛ける
- ・ 生徒のみならず地域全体で取組み、生涯学習の一助とする
- ・ 問題データベースなど、ICT 教育機器の整備・周知を行い、誰でも、いつでも、自由に学習プリント作成が可能な環境整備を行う
- ・ 学校準備の課題プリントの配布、回答、ファイリングのシステム構築
- ・ 「生き方が変わるプロジェクト」と連動した学習講演会の実施
- ・ 「マイ学」検証のためのアンケート調査の実施
- ・ 学年に応じた家庭学習時間の最低基準を設定(70分、80分、90分)
- ・ 家庭学習の手引き(まいにちぐんぐん)の作成

3. 「マイ学」の目標と三者への戦略的アプローチ

(1) 目標

毎日机に向かう習慣と、一定時間学習活動を継続することで以下①～③の力をつけることを基本目標としている。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 基礎学力の定着と学びへの意欲喚起 ② 根気や集中力、やり通す力など勤勉性を育てる ③ テレビやゲームを我慢することで自己管理能力が向上 |
|---|

同時に、これら日々の積み上げが、城南中学校が推進している「生き方が変わるプロジェクト」と連動することによって、生徒の生き様に迫る具体例として、心、態度、習慣を変えることで生き方が変わる教育実践と位置づけている。

また、「マイ学」を支援・実践する環境を学校・家庭・地域が協働することで心豊かな街づくりと生涯学習につなげるねらいも併せ持っている。

(2) 実践のためのアプローチ

「マイ学」を効果的に実践するために、支援母体である学校、主体者である生徒、協力者であり共に実践してほしい家庭・地域に対して行った戦略的アプローチは以下のとおりである。

① 教職員へのアプローチ

- ・ 全教職員が「マイ学」プログラムを共通理解し、型はめの先にある生徒の自立・自己実現の支援につなげる
- ・ 学習プリント作成のための ICT 教育関連機器の研修会
- ・ 先進的取組みを行っている実践者を招聘しての校内研修会

② 生徒へのアプローチ

- ・ 年間を通して学習プリントの提供と回答の作成。ファイリング、保護

者を加えた評価活動など、マイ学システムの周知

- ・家庭学習時間（学年×10分＝70分、80分、90分）定着のための指導・助言
- ・積み上げによる達成感や成就感を体得させ、教育相談や懇談時のコミュニケーションツールとしての活用
- ・多方面で活躍する第一人者を招いての「生き方が変わる講演会」の実施

③ 家庭（PTA）・地域へのアプローチ

- ・校区版「家庭学習の手引き（まいにちぐんぐん）」の作成
- ・地域での会議等、あらゆる機会を活用して、地域みんなで「マイ学」の普及・啓発を行う。生徒の「マイ学」中は、テレビを止めるなど、学習環境づくりに努めると共に、一緒になって自らを高めるために、毎日一定時間「マイ学」（大人は読書や軽スポーツ、子どもは学習等）を普及させ、地域ぐるみで生涯学習環境を創出する。
- ・PTA 組織に対して、「新・家庭教育宣言キャンペーン」の展開を働きかけ、「マイ学」に対しての環境づくりを提唱する。
- ・市及び府の PTA 協議会組織に対しても家庭教育支援キャンペーンを提唱する。

4. 「マイ学」の実際と効果

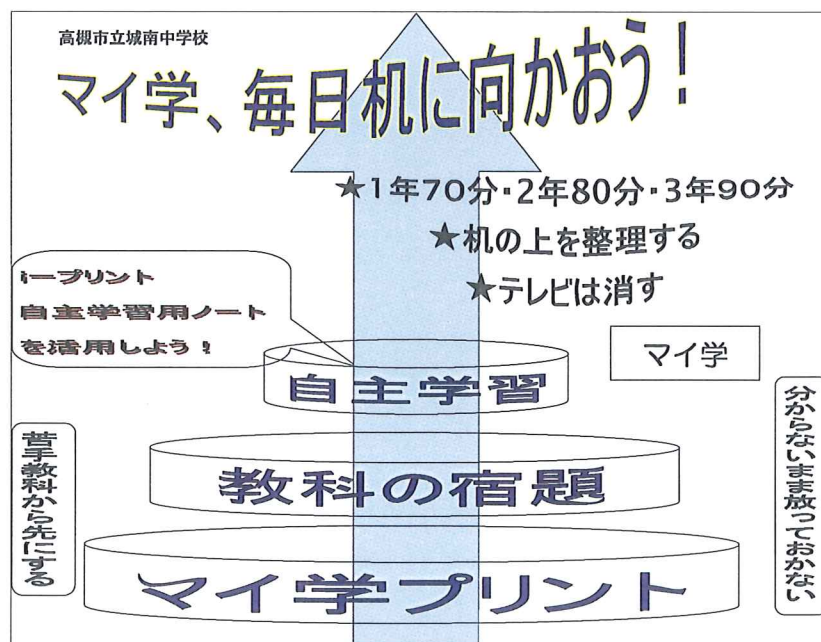
(1) 「マイ学」のコンセプト

設定した9項目に沿ったイメージした図。365日机に向かう習慣を付けるため、マイ学プリントを家庭学習のきっかけとしている。

学習時間は各学年の最低基準を明示し、教科の宿題や自主的な学習への支援策を整備し、家庭への協力をお願いしている。

(2) 「マイ学」の実際

基本は毎日1枚のプリントを配布し、翌日に回収・点検・解答の後ファイリングを行い、次のプリントがまた配布されるサイクルで、国語・数学を中心に5教科の課題が用意される。



「マイ学」の実際を手引きで紹介する。

城南中学校 家庭学習の手引き

「マイ学」の手引き

マイ学とは、

- ①自分(マイセルフ)のための学習
- ②毎日(マイニチ)の学習

中学校は、義務教育最後の3年間です。
この3年間で「自分の夢を実現する」「社会人として生きていく」
ために、確かな学力を身につける必要があります。
これは誰かのためではなく、自分のため学習(マイ学)です。

それには、授業をしっかり受けるだけでは、十分ではありません。
家に帰ってからの毎日の学習(マイ学)がかかせません。

家庭学習をしっかり取り組む生徒ほど、学力が高いことは
さまざまな調査から分かっています。

この「マイ学」の手引きは、家庭での学習
を進め「自分の力」を高めるためのものです。
しっかり取り組んでいきましょう。

家庭学習って何をしたら
いいのかなあ？

宿題だけしてたら
いいのかなあ？



1. 「マイ学」をしないとどんないけないことがあるの？

まず、毎日机に向かう習慣が身につくことです。

毎日、机の前に座ること。

これを6ヶ月、1年間続けると根気や集中力・やり通す力
が身についてきます。

その結果、基礎学力が身についてきます。

また、「1ヶ月後にテストがあるから今はこの勉強をしておこう」とか
「今日は、〇時からTVがあるから、〇時までには勉強を終えておこう」
など、先を見通して今自分は何をすればよいのかを考える力や
一日の時間の使い方を考える力という自己管理能力を
身につけることにもなります。

1

2. 「マイ学」のポイント

- ①毎日、机に向かう
- ②机の上を整理しておく
散らかった机では、落ち着いた気持ちで勉強できません。
- ③テレビは消す
「ながら勉強」はしない。
- ④苦手教科から先にする
得意教科を伸ばすことも大切。でも中学校では苦手なことも
しっかり勉強しましょう。
- ⑤わからないまま放っておかない
まずは教科書・ノートを調べる。次に友達や先生に聞く。

今まで学習習慣がない人へ！
3ヶ月、毎日机にすわる練習を
しよう！



3. 「マイ学」の時間は何分したらいいの？

中1は70分、中2は80分、中3は90分

上の時間は、最低限の時間です。
10分×(学年)で中学1年生は7年生としています。

2

4. 「マイ学」の取り組み方

まずは、「マイ学」プリント

毎日の終礼でもらって、毎朝提出するプリント

次に、宿題

各教科の授業で出されるもの



さらに、自主学习

自主学习は、こんなふうに取り組んでみよう！

① i-プリントをする。

- ・職員室前の廊下のパソコンから、必要な「i-プリント」を自分で印刷する。
- ・家に持って帰り、自分でやって答え合わせをする。

次の日...

- ・「i-プリント」がよくわからなかったときは、「マルチメ学習」を見る。
- ・理解度にあわせて、「定着」「標準」「発展」のプリントを自分で印刷する。
- ・家に持って帰り、自分でやって答え合わせをする。

② 自主学习用のノートを用意して今日の授業で習ったことをその日のうちにまとめておく。

★次のページ:5教科からのワンポイントアドバイスも参考にしてください。

★この「自主学习」に取り組むと、ぐ～んと力がつくことまちがいなし！

5. 保護者の皆様へ



家庭学習の大切さはわかるけれど、
親として何をしたらいいのでしょうか？

ご家庭ではさまざまな方法で、
お子様の家庭学習の支援をお願いしたいと思います。

例えば次のようなことはどうでしょうか？

- ①「マイ学」の時間は、家族が協力して勉強しやすい環境にしましょう。
(TVを消す、周りに気になるものを置かないなど)
- ②家族と一緒に、本を読むなど自分のためになることをしましょう。
- ③お子様のがんばりには、声をかけてほめましょう。

(3) 効果

生徒・教職員・家庭と三者三様に効果が認められる。

生徒への効果としては、学習の目的を明確することによって、その意義が見直されたことが授業規律の向上や基礎基本の定着につながっている。とりわけ、学力低位層の意識に変化が見られ、定期テスト等においては顕著な学力の二極化に一定の改善が見られようになった。

学習時間が増加し、継続することでの充実感や成就感、力がつくことの喜びが実感できたと思う。

教職員の効果としては、共通理解とベクトルの一致は同僚性を高め、教科を超えた協働が教職員のまとまりをつくり、学校づくりへの参画意識の向上へとつながっている。

保護者・地域については、懇談時には「マイ学」ファイルを見せる等、コミュニケーションツールとして役立っている。家庭内での会話も増え、学校への肯定的な評価が生徒の安定を生み出している。

今後も「マイ学」に加え各教科からの宿題、自学自習を支えるためのプリント作成システム「i-プリント」の活用等、能動的な家庭学習の定着を図っていききたい。

また、PTA 組織の活性化や地域の交流に一定の役割を果たしてきている。

5. アンケートの結果から

実施二ヵ月後の 6 月に行った「マイ学」アンケートの結果から、マイ学への取組み姿勢と家庭学習習慣に相関が見られる。さらに、半数の生徒で机に向かう時間が増加していることから取組みによる効果が認められる。

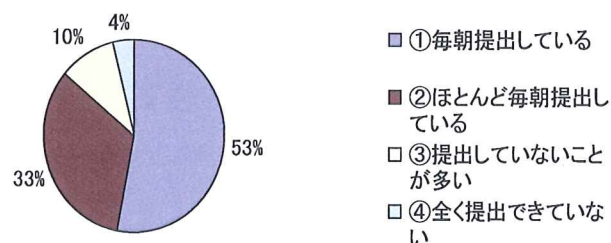
質問 1（提出率は 88%、時々忘れるが 10%、未提出が 4%）

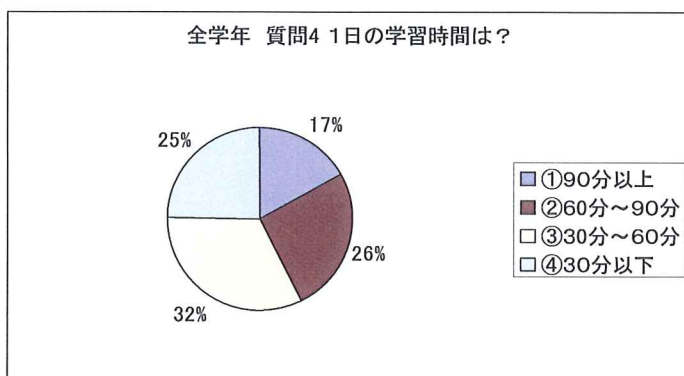
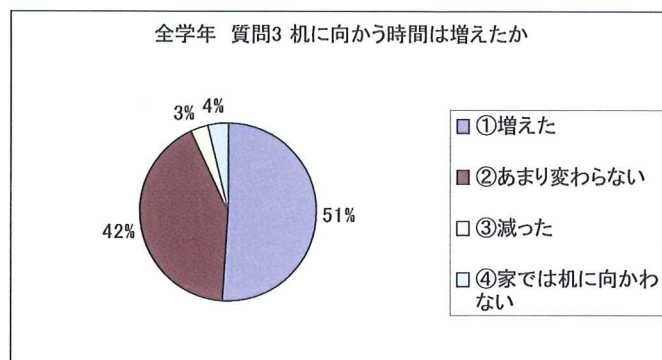
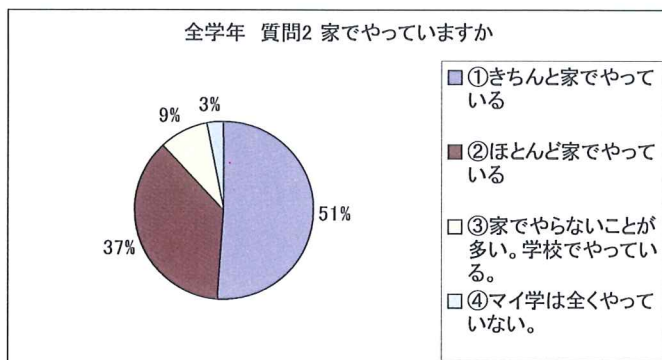
と、質問 2（家庭学習 88%、学

校 9%、全くしない 3%）の相関関係から、家庭学習の習慣定着が提出率をアップさせると考えられる。全く提出しない生徒（3%）を含めた 12%の生徒への支援体制が求められる。

また、一日の学習時間にはバラつきが見られ、学習習慣づくりを小学校段から「型はめ」する必要性を強く感じる。

全学年 質問1 毎朝きちんと提出できていますか





全体 60分～90分 26%、90分以上 17%

1年生 60分～90分 31%、90分以上 23%

2年生 60分～90分 27%、90分以上 7%

3年生 60分～90分 17%、90分以上 19%

6. PTA の支援活動

年度当初に PTA 役員と協議を行い、近年の学力低下や基礎基本が定着しにくい現状は、多分に家庭学習が習慣化されていないことに起因すると合意し、「マイ学」の取り組みに対して支援・協力を要請した。

保護者や家庭・地域に対しては、「マイ学」の手引きを使い、その趣旨と仕組み、学校や家庭の役割などの周知・徹底を図った。同時に子育て支援が PTA 活動の大きな柱であるという、新たな活動視点も提唱した。

PTA に対すアプローチの結果、様々なキャンペーン活動が展開され、各家庭が工夫をしながら「マイ学」に対する支援体制が広がったと考えている。

支援活動の内容をまとめると以下の 4 点になる。

- ・ P T A 総会をはじめ、会員が集うあらゆる



機会を通じて「マイ学」キャンペーンを展開

- ・「マイ学」応援のため、「マイ学応援中」の垂れ幕の作成し校舎正面に設置
- ・6月の全校集会で生徒たちに向けて「マイ学」応援ビデオメッセージを発信
- ・全家庭に「マイ学」応援シートを配布し継続的な支援環境づくりを設定



以上の取組みを通して、家庭・地域の支援体制を整え、まず大人が見本を見せながら、家庭ではテレビを消したり飲酒を控えたりしながら、家族全員で「マイ学」に取り組む環境づくりを推進している。

7. 生き方を変えるプロジェクトとの連動

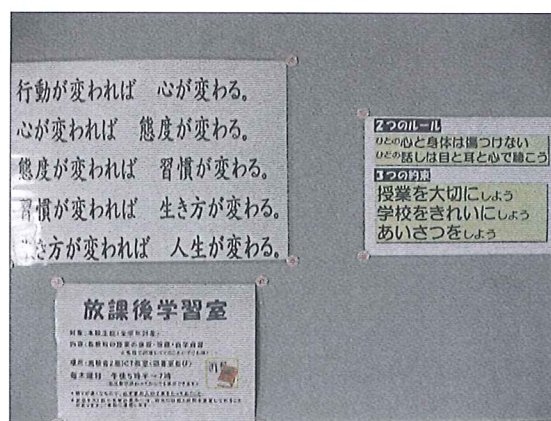
私たち教職員は、教育現場において生徒たちの学習や生き方の指導を通して、人生の土台作りに関わっているわけであるが、彼らとの信頼関係の中で、可能性を広げ自己実現に向けたより良い生き方を身に付けてほしいと願い教育活動を展開している。

筆者の拙い経験から、これまで出会った多くの前向き人間には共通項があるように感じる。それは本人の資質や才能に関係なく、前向きに生きようとする心がけや態度、習慣といったベクトルがある方向性を持っていて、それらのベースの上に、ちょっとしたきっかけや働きかけが本人の「心的エネルギー」を高めていると考えている。

例えば修学旅行で訪れた法隆寺に惚れ込み、人生が変わった宮大工棟梁の小川三夫氏をはじめ、あるきっかけで大きく生き方を変えた人のエピソード³は多々散見される。多感な時代に鳥肌の立つような感動や、信頼関係の中で何気ない励まし・評価が時には人生の方向性を決めるといっても過言ではない。

これらの考えを前提として校内の各所には、「生き方を変えるプロジェクト」と名づける生徒向けメッセージが掲示されている。「行動を変えれば心が変わる。心を変えれば態度や習慣が変わり、一人ひとりの生き方、すなわち人生が大きく変わってきます」と訴えている。

全校集会等の校長講話の中で、行動や習慣を変えるコツを実例引用しながら、生徒に伝えている。豊かな学校生活を送るための「2つのルールと3つの約



束」で行動や心を「授業やクラブ活動」で態度を、そして「マイ学」で習慣を変えようと連動させている。

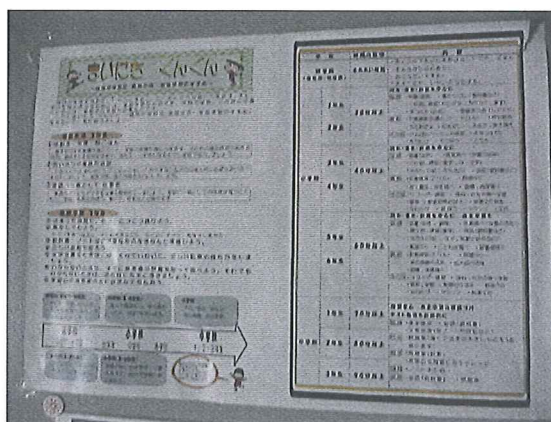
8. 課題と展望

一年を経過し校内外での「マイ学」に対する理解や生徒の取組み姿勢は定着し、ねらいとする家庭学習習慣は確実に定着しつつある。二年目のアンケート結果からは95%が継続を希望し、反復や計算問題など基本的な内容からもう少し難しい問題への要望が見られる。

課題は未提出を含む10%の層で、家庭状況を見据えた対象生徒への丁寧な指導が必要である。現在は放課後学習や班活動への取り込みで対応している。同時に家庭訪問や三者懇談で心的エネルギーを高めるようにしている。

P T Aや地域に対しても「マイ学」キャンペーンを継続しながら、家庭の理解・協力を得て提出率100%を目指していきたい。

また、展望としては、単位P T Aの活動に留まらず、全市的なキャンペーンや府P T A協議会の組織的な事業展開につながればと期待している。





9. おわりに

「マイ学」は、生徒と教職員とで基礎基本の定着に取り組もうと発案したもののだが、結果的には保護者や地域も巻き込んだ中で推進されてきている。

スタート当初には、プリント一枚で家庭学習が定着するのか、という疑問やプリント学習だけでは無理と言う意見もあったが、システム化と身近でごく当たり前のことを習慣化することを重要視した。生徒たちが毎日、家庭学習を継続していく中で自然と自分流ができてくる。最初は「型」から入っても、ある時点で「型」から脱皮することになる。私たちが身に付ける様々な発達課題は往々にして「型」の形成と、その「型」からの脱皮で成長していく。

要は習慣すなわち継続が生き方を変える力となり、人生が望ましい方向に変わると確信している。

最後に学校が様々な学習機会を発信する姿勢は評価される一方で、定着し発展していくには、今後更なる工夫改善が必要であると感じている。たくましく「生きる力」を育成する一助になることを信じ「マイ学」の取組みを継続していきたい。



¹ 『第4回学習基本調査』 Benesse 教育研究開発センター(2006)より出典

² 前田 勉『学校経営の金言・迷言・独り言』(三晃書房) No59 を参照

³ 『家の光』(JA 共済・近畿版) 2007,11 月号を参照